



短歌 (はなさい短歌会)

まぼろしのピアノとよめく曙に透明の露こぼす紅梅
 温暖化は小さき我が家の菜園にも大根・春菊・カブ大収穫
 春暖にほつり畝はおこされて太古のままの土匂い立つ
 紅梅のかぐわしき香が流れ来て春待つ吾の心満たさる
 日溜まりにそつと紅ふく梅蕾 爺は猫抱き日向ぼこ
 早春の日差しを受けて「ふるさと」のタスキをつなぐ駅伝走者
 布きれに籠る思いを縫い合やす吊るし雛から揺れるかげろう
 久々に舞い散る雪と白梅を重ねて見せるふるさとの冬
 雲間よりこぼれて光る太陽に感謝しながら洗濯物干す
 東風かすかに匂う水仙は光を浴びて今日も客待つ
 陽光を見事に集め冬スミレ濃淡の美を可憐に綴る
 一滴のグランマニエが醸し出すチョコ一粒よ どこかで春が

南 史郎
 渡辺ケミ子
 篠原 順子
 有馬ケイ子
 内山 幸夫
 江口さくら
 篠田 紀子
 下戸富美子
 江成 成子
 東郷ミイ子
 満園 正夫
 西 恭子

短歌 (南船志布志短歌会)

文明はガラスの破片雪こんこんピエロのような人間も増え
 寒空にほつかりあいた雲間より陽が零れ落ち枇杷島深く
 秀をぬぎて赤き芽丸くふきのとう元朝の庭散策に愛つ
 年賀状御一同様の一枚に礼なし給ふ三人よありがとう
 石路の小さき新芽を見つけた杖を頼みに歩む庭辺に
 物さがす時間がだんだん増えてくるさがす理由も時にはさがす
 愛により歌は生ると説かれたり未明の庭にちちる虫鳴く
 新しき年を迎えて日々のなか想いを深く後や先なり
 まあいいかときめきながら引きし籤今年の運勢中吉とあり
 幸せよ八十路の坂を越えて来たもひとつ登らむ二人三脚で
 年賀状添え書きつける墨のあと七十枚の指はかじかむ

暉峻 康瑞
 池ノ上二枝
 川井田登志子
 林 静子
 平川 澄子
 益倉 睦美
 松下 芙美
 松元 文子
 宮原 順子
 山田 和子
 山元ハツミ

川柳 (志布志川柳会)

断捨離の出来ない世代 強く生き
 捨てきれず 書棚に並ぶ 文庫本
 捨て猫に まとい付かれて 居すわられ
 仕事より 人付き合いに 疲れ果て
 会長職 捨て一平卒 清々し
 駆け足で 春の足音 たすきかけ
 日向ボコ 老いには春が 待ち遠し

赤池 忠重
 江藤 房子
 高田 昭秋
 上東マキエ
 末永 一雄
 高田 秀雄
 内山 幸夫

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：菜の花】



Japanese Poem of 31 syllables
 *Haiku Poem*Comic Haiku*